安宅船

安宅船模型（沼津市立図書館展示）

安宅船は、戦国時代後半に登場した大形の軍船です。全長は、25m 前後と推定され、これまで東国にあった軍船を圧倒する存在となりました。大形で安定感のある船体に加え、さらに楯板と呼ばれる装甲板が船体を覆い、そこには、矢や鉄砲を放つための狭間（窓）が備えられていました。

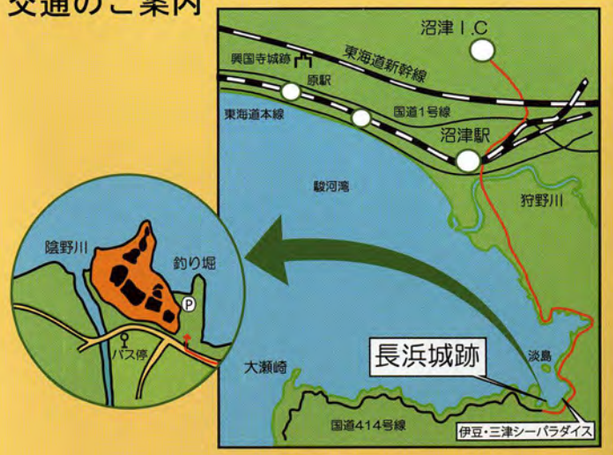
北条水軍の全体の戦力は不明ですが、安宅船だけでも 10 艘あったと伝えられています。

駿河湾海戦

『北条五代記』によると、天正八年（1580）春、武田水軍は長浜城付近まで攻め込み、北条水軍がそれに応戦したことで駿河湾海戦が始まったとされています。北条水軍の反撃に武田水軍は退却しましたが、北条方はその後を追い、両軍の戦いは日が暮れるまで続きました。

両水軍は翌年まで繰り返し戦いましたが、両軍ともに味方の働きをほめたたえる文書が残ることから、どちらが戦いを有利に進めていたか、はっきりしていません。

交通のご案内



公共交通機関をご利用の場合

東京 名古屋 東海道線 →沼津駅 沼津登山東海バス約 40 分 → 城下橋バス停（長浜城跡前）
「木負」「江梨」「大瀬」行

東京 名古屋 東海道線 新幹線 → 三島駅 伊豆箱根鉄道約 20 分 → 伊豆長岡駅 伊豆箱根バス約 25 分 伊豆・三津シーパラダイス行
→ 伊豆・三津シーパラダイスから徒歩約 15 分 → 長浜城跡

自家用車をご利用の場合

東名沼津ＩＣ → 県道 83 号 → 国道 246 号 → 国道 414 号 →（杉崎町交差点左折）
上石田南交差点右折
→（口野放水路交差点右折）→ 県道 17 号 → 長浜城跡

東名沼津ＩＣ → 駿河湾環状道路 → 伊豆中央道 → 長岡 IC → 県道 130 号
新東名長泉沼津 IC （IC を降りて右折）
→ 三津三叉路左折 → 長浜城跡

お問い合せ

沼津市文化財センター

〒410-0106　沼津市志下 530
TEL 055-935-5010　FAX 055-933-1270
E-mail:cul-bunkazai@city.numazu.lg.jp

国指定史跡

長浜城跡

— 北条水軍の拠点 —

沼津市教育委員会

長浜城の築城

長浜城が築城されたのは 15 世紀後半ごろと推定されていますが、本格的な水軍城として使われたのは、天正七年（1579）に駿河国を手中に収めていた武田氏が、狩野川河口に三枚橋城を築き、北条氏をけん制した時でした。

北条氏は伊豆国の中で最も重要であった韮山城を守るため、徳倉や大平などの狩野川沿いの城を築城・改修しました。さらに海から韮山城に攻め込まれないように、獅子浜城と長浜城を整備し、長浜城には北条水軍の大将である梶原備前守景宗を呼び寄せ、北条水軍の主力を集結させました。

駿河湾海戦時（1580年ごろ）の城郭分布図

第一曲輪からの眺望

長浜城跡の頂上からは、内浦湾越しの富士山だけではなく、武田氏の最前線基地であった三枚橋城の跡地も見通すことができます。

自然

穏やかな海と停泊するヨット

長浜城跡が位置する内浦湾は、西から延びる長井崎と、北東の淡島によって、風が遮られ、たとえ周りが強風であっても、穏やかさを保ちます。そのため、船の係留に適しており、現在のヨットと同じように、戦国時代の軍船も、城の周辺に停泊していたと考えられます。

堀切

発掘された堀切

堀切に残る畝

長浜城の基盤は1000万から200万年以上前に形成された凝灰岩層です。そのため堀を掘るためには、硬い岩盤を削り込むしかありません。

発掘調査によって第一曲輪で見つかった堀切は、敵の侵入を防ぐために一部を畝として残しながらも、1.5mほどの深さまで掘り込まれていました。

第二曲輪

復元された第二曲輪

城郭の中の平場を曲輪と呼びますが、長浜城跡の中で最も広い曲輪が、この第二曲輪です。海側は、視界が開けている一方で、山側では、防御用の土の壁（土塁）や堀切、そして建物跡など、戦闘のための工夫が至る所に施されています。

やぐら

発掘されたやぐら

半地下式の構造をもつ2間四方9本柱の掘立柱建物で、岩盤を掘り込んで造られました。また少しずつ位置をずらしながら、3回の建て直しがなされています。

海側へ見通しがきくことや岩盤をくり抜くという困難な作業を同じ場所に繰り返し行って建て替えていることから、この建物は、この場所になくてはならない、とりわけ重要で象徴的な意味を持つ建物であったことが考えられます。